

# 国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
306	国際政治経済学演習 (清水和巳)	通年	3年以上：4単位	清水 和巳 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

人間と社会の政治経済学

授業概要  
Course Description

「不思議なものは多い。しかし人間ほど不思議なものはない」(ソフォクレス『アンチゴーン』)

古代から現代に至るまで、人間はあらゆる学問分野で最大の謎であり続けてきた。社会科学はとりわけ人間と社会の関係に興味をもってきた。スミスは人間が利己的に行動しているにもかかわらず社会が破綻しないことを、ヴェーバーは資本主義という特殊な社会経済制度を支える人間が西欧という地域で生じたことを、マルクスは人間が作り出した社会が逆に人間を疎外していくことを、彼らはそれぞれの謎に彼らなりの解答を用意した。とはいえ、こういう偉大な先達がとりくんだ大問題だけが謎なのではない。たとえば、海外旅行をしたときにあるレストランで食事をしたとしよう。「ここで食事することはおそらくもう二度とない」とわかっている、われわれはチップを払う。実はこれも(ある観点からすると)人間と社会に関する謎なのだ。

本演習の目的は、人間の意思決定・行動、その結果として生じる社会制度に関する謎を自分でみつけ、そこに社会科学的に切り込む方法を学ぶことにある。その際、「自分」にとっては謎だが、他人にはなぜそれが解くべき謎なのかが理解できない、「自分」はその謎に答えつもりだが他人は納得しない、こういう事態は避けたい。したがって、演習参加者は少なくとも以下の3点に関して自問自答してほしい。

- なぜ(どのような立場からすると)その問題を「謎」ととらえることができるのか?
- もし、その問題が本当に「謎」であるなら、それにどのように応答することが社会科学と言えるのか?
- そもそも、社会科学的に思考するとはどういうことなのか?

授業の到達目標  
Objectives

演習参加者は、自分の問題設定、問題の検討方法を他の参加者に理解させ、納得させために必要な技術や方法を身につける。

授業計画  
Course Schedule

第1回：オリエンテーション  
 第2回：「読む技術」1  
 第3回：「読む技術」2  
 第4回：「書く技術」1  
 第5回：「書く技術」2  
 第6回：基礎的知識の講義1  
 第7回：基礎的知識の講義2  
 第8回：基礎的知識の講義3  
 第9-15回：各人の興味対象に応じた文献購読・発表  
 16回目-30回目は夏合宿での卒論計画発表をふまえて、各人に報告を割り当てる。

教科書  
Textbook(s)

特になし。事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。

参考文献  
Reference Book(s)

第一回目のゼミナールにおいて参考文献リストを配布するが、制度の経済学、ゲーム理論、科学方法論などの分野を重点的に読んでいく。

**評価方法**  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

**備考**  
Note

学生に対する要望  
(1) 質問がある場合、次のアドレス宛てにメールで問い合わせること：skazumi1961@gmail.com。  
(2) 担当教員の「比較経済制度分析」を受講済みであること、加えて、ミクロ経済学、ゲーム理論、統計学、科学哲学に関する基本的な知識があることが望ましい。まだ「比較経済制度分析」を受講していない場合は、来年度受講することを強く勧める。

**関連URL**  
URLs for References